



伊豆大島 三原山の最近の活動経過

三原山は昭和25・26年の大噴火以来 ほとんど毎年小噴火を繰り返してきている。

今年になつてからも1月～2月および4月～7月に火山性地震が起り 8月5日から今日まで爆発活動を繰り返している。

三原山の活動は このように爆発をひんぱんに繰り返したり 時には熔岩を流し出すこともあるが 桜島・浅間山のような大爆発は見られないので 従来から噴火が山ろくの人々の生命財産に大きい災害を与えたことはなかつた。ただ 近年登山者が激増し かつ先年の阿蘇火山の惨事の例もあるので 大島測候所では大島支所・警察署・役場などと協力して かねてから危険区域への立入りを禁止していた。

ところが 本年10月13日10時32分の爆発は たまたま日曜日で登山者が多かつたため 死者1名・重傷14名・

軽傷39名を出した。

爆発地点は昨年1月及び8月の時とほぼ同じで 噴煙の高さは2,000mにも達し 人頭大の噴出物が火口から150m くらいの範囲に落下したものである。

この時の爆発地震は大島測候所で

最大振幅45マイクロンであつたが 12日14時06分にも最大振幅35マイクロンの同種の地震が記録されており この時にもかなりの爆発があつたものと推定される。なお現在も引続き火山性微動が続いているが 火山性微動の観測によつて 火山爆発の予知がかなりの確に行われるようになりつつある。

今回の爆発は火口壁や火口をふさいでいた岩石を抛出したもので 赤褐色に酸化化して 新しい噴出物は見られない。

三原山は日本でも代表的な玄武岩を噴出する活火山で 有史以来たびたび噴火を行つているが 最近の活動としては次のようなものがあげられる。

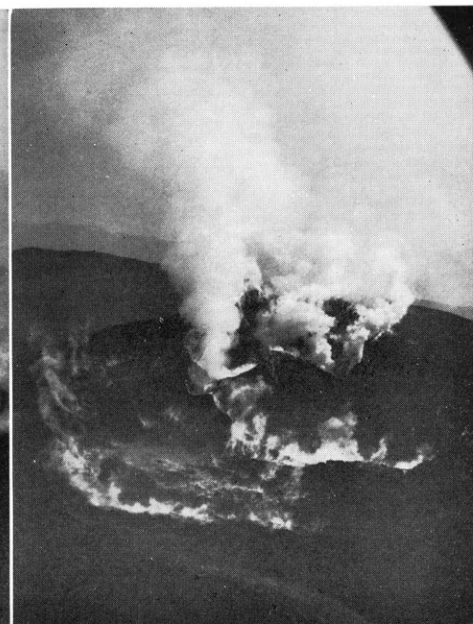
昭和25年7月～9月

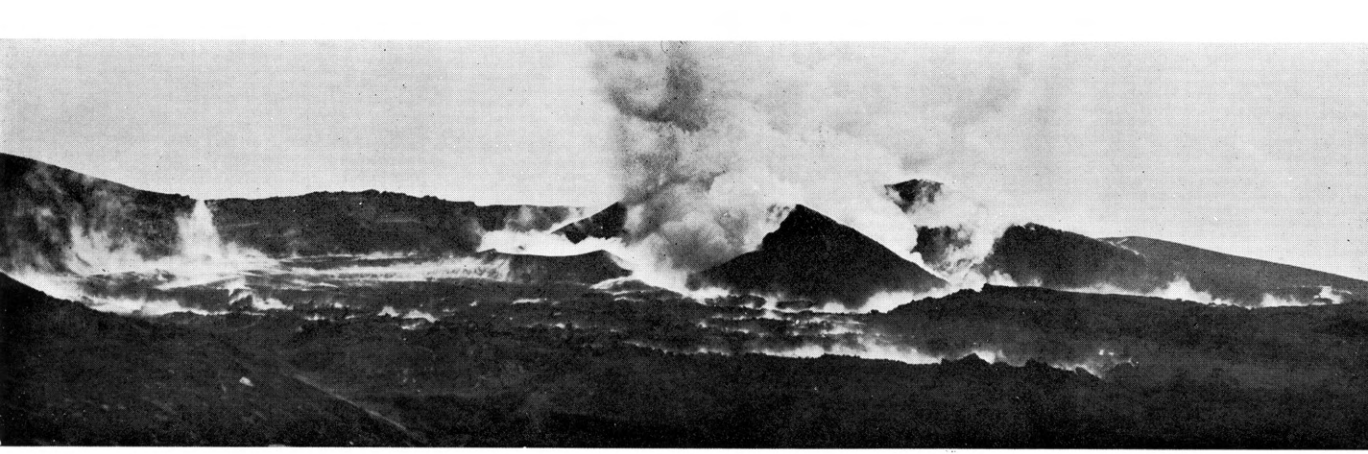
大噴火(熔岩多量流出)

昭和25年9月7日～9日・20日

地震 52回

噴火当日の三原山(32.10.13)(中日新聞提供)





剣ヶ峰付近からみた噴火状況 (32.11.19)

昭和26年2月～6月

大噴火 (熔岩多量流出)

昭和27年10月4日～5日・8日～10日

地震 28回

昭和27年12月10日～26日 地震 137回

昭和28年5月26日～29日 地震 23回

昭和28年10月～29年2月 噴火

昭和29年4月～7月 火山性微動

昭和29年11月上旬

噴火活動

昭和30年9月7日～8日

地震 81回

昭和30年12月～31年

1月 噴火

昭和31年4月24日～5

月12日 地震 261回

昭和31年8月25日～

26日 噴煙活動

昭和31年11月11日～

12日・17日～12月20日

火山性微動

昭和32年1月9日・10

日・13日～21日・30日

地震 173回

昭和32年1月20日～

7月10日 火山性微動

昭和32年8月5日～11月7日現在

噴火・火山性微動

なお 三原山の噴火では 浅間山・桜島のような大爆発は考えられないし 最近 200年間に熔岩を出したのは 1777年8月の安永の噴火と昭和25年～26年(1950—1)の噴火の時だけであるが 最近の小活動は相当長期にわたる おそれもあつて 今回の事故以後現在も火山性微動が続いているので注意を要するという。—気象庁資料から—

(物理探査部・技術部 地球化学課)

三原山の噴火口図

